

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こばんはうすくら 浜松原島教室			
○保護者評価実施期間	令和8年1月5日		～	令和8年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19	(回答者数)	13
○従業者評価実施期間	令和8年1月5日		～	令和8年1月16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月10日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	【少人数制での活動により、個別に応じた丁寧な支援、対応】 ・少人数での支援体制により、一人一人に合わせた手厚い対応が行えることが強みだと考えています。	朝や帰りの支度から主活動、食事や排泄など生活にかかわる様々な場面で一人一人に合わせた丁寧な対応を行えるよう、職員間で支援内容や対応について協議し、手厚い支援を行なえるよう配慮しています。	一人一人に寄り添った丁寧な支援の提供のため、職員間での個別対応の協議を深め、子ども達に関わる職員全員が対応方法を統一し、質の高い支援が行えるよう検討していきます。
2	【多職種な職員による専門的視点での集団・個別活動の実施】 ・多職種な職員による専門的な視点に基づいた関わりが行われています。	多職種な職員による支援体制で、専門的な視点に基づいた計画や個別支援の実施、モニタリングを行うことができています。職員が専門的視点での支援を統一して行うことにより、子どもたちにとって安心でき、安定した支援内容や環境を提供することができています。	様々な専門的な視点から活動内容や対応を検討し、子どもたちの成長を促すことができるよう配慮していきます。また、各専門分野を職員間で共通認識し、子どもたちに滞りなく支援が行き渡るよう協議していきます。
3	【関係機関や家庭と連携し、多角的な視点で支援を行なえる】 ・本人、ご家庭に携わる各関係機関との連携体制がとれているため、事業所のみでは補えない多角的な視点で本人支援、家族支援が行えます。	事業所の様子だけでなく、各関係機関や家庭と連携し、それぞれの視点を踏まえて本人にとってより良い支援を計画し、実施することができています。	ご家庭での様子や併行通園先での様子を注意深く聞き取り、各関係機関とも連携をとりながら、ご家庭と子どもたちのサポートを行っています。今後も引き続き、必要に応じて各関係機関との面談を行い、より良い支援に活かせるよう配慮していきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	【地域での交流活動の少なさ】 ・地域での交流の機会が少なく、事業所外での活動内容が重複してしまうことがあるので、地域の方々と交流を持てる場の提供や公共施設での活動等を検討していきます。	他園や他事業所との関わりの希薄さから、当事業所以外の子ども達や地域の方々との関わりが持ていない。 ・公共施設での活動の少なさ。	他園や他事業所との交流の機会を検討していくと共に、こばんはうすくらの他教室と連携を取り合いながら、合同で活動できる内容を検討、実施し、子どもたちが教室外の人との関わりを増やしていけるよう検討していきます。また、公共施設への事業所外活動を増やし、施設の使い方やルールなどの社会性を育てていくよう配慮します。
2	【保護者同士の交流の機会の少なさ】 ・保護者が参加する行事が年2回と少ないため、保護者の方同士の交流の場がなかなか提供できませんでした。保護者の方の意向を確認しながら、希望に応じて交流の場を提供できるよう検討していきます。	・行事で使用する施設や駐車場確保の問題により、保護者の方が参加できる行事が年2回(運動会、ふれあいデー)となっている。 ・保護者交流を希望されない方への配慮が必要。	保護者の方が参加できる行事を充実させ、保護者同士の交流の場が増えるよう活動内容を検討していく。また、保護者の方の交流に関する意見を尊重し、それぞれのご家庭にあった交流の場の提供を検討していきたい。
3	【普段の様子や情報公開についてのツールの少なさ】 ・月に1回のこばんだよりの配布と2ヶ月ごとの園フォトの公開、行事の際には写真と文章で様子をお伝えしています。ご家庭に、より普段の様子が伝わるような発信方法を検討していきます。	・月に一回配布のお便りでは、文章との兼ね合いから写真の掲載に限界があり、掲載できない子もいる。 ・園送迎のご家庭は、直接子どもの様子を伝えられず、リトムのみでのやりとりになってしまう。	行事に関わらず、不定期で普段の様子を写真で分かりやすく伝える。送迎時などで、活動の様子や食事の様子などを動画や写真で伝える。園送迎のご家庭に関しては、面談の際に写真と動画を用いて普段の様子を見ていただく。電話連絡等で細かく様子を伝えていく。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こぼんはうすさくら 浜松原島教室			
○保護者評価実施期間	令和8年1月5日		～	令和8年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数)	16
○従業者評価実施期間	令和8年1月5日		～	令和8年1月16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	2月13日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用児童だけではなくの家庭の全体像を見させていた だきながら(主に親御さんのメンタル等…)必要に応じて 面談や相談を受け付けています。	児童の様子と合わせて日々の送迎時での親御さんの様子やリ トムの内容等、色々な情報にアンテナを立てて職員間で情報 共有をしています。いつもと様子が違ったり何か変化が感じ られる時にはこちらから声を掛けたりして迅速に対応が出来る よう心がけています。	ご家庭の方から言い出すことができない方や家庭のことを深 掘りされたくない方もいらっしゃるので親御さんとの距離感 に配慮していきます。また普段から関係を築き、困った時に 発信ができるような関係づくりを心がけます。
2	不登校(学校への行き渋り)に対して午前中からの来所 も受け入れています。	対応時に話を聞いたり、児童の気持ちも汲み取りなが ら来所の時間や方法、過ごし方を考えています。学校 に行けなかった時はこぼんに行くという習慣づけがで きるようできるだけ毎回同じ条件での来所ができれば と考えています。	行き渋りがあった時に対応するのではなく日常的に児童の思 いを聞き出し迅速に対応していけるよう普段から関係を深め ていきます。また同様にご家庭との関係も日頃から深めてい けるようコミュニケーションをとっていきます。
3	毎日同じ流れになっており一日の中で30分、集団活 動の時間が設けられています。	学校のある日、休日と2つのパターンにして一日の流れを統 一しています。活動内容ごとにルールややり方を統一し見通 しをもって安心して取り組むことができるようにしていま す。	活動内容の元の形は大きく崩さずにアレンジを加えたり、定 期的に新しい活動を取り入れたりして飽きてしまわないよう にしています。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士で関わる機会やペアレントトレーニング等、保護 者が関わる機会がもてていません。	運動会やふれあいデー等のイベントで保護者の方に参加して いただく機会はありますがゆっくり交流ができる時間はとれ ておりません。児童とは別に時間をとることが難しくなって います。	どのように時間を確保したら良いかイベントも含め模索して いきます。ご家庭によっては抵抗がある方もいらっしゃるの で参加しやすい形を模索していきます。
2	事業所と地域との交流が少ないことです。	普段平日の利用の中では時間がとれないことや休日は季節の イベント等があり時間をとれる機会が少ないことも要因の一 つです。地域と関わるきっかけをなかなか持てず交流に繋 がっていないのが現状です。	地域を巻き込んだイベントの開催や交流の機会を模索し検討 していきます。
3	換気をしづらい構造になっているため感染症が発生した時に 広がりやすくなっています。	部屋の反対側に窓がないことと、児発と放デイのトイレが隣 り合わせになり廊下が一緒になっていることです。	感染症の発生しやすい時期には定期的に窓を全開にする時間 を作ったり手洗いだけでなくうがいや消毒を細めに行ってい きます。